

『たてわり・ペア活動の実践』

藤枝市立葉梨西北小学校

Ⅰ ピア・サポート活動年間プログラム

月別	ピア・サポート活動 ピア・サポートを中心に据えた行事	プログラム	職員研修	
4月	全校遠足 (1年生を迎える会) (たてわり班ごとの遊び) わくわく班ランチ わくわくペア読書(年間3回)	計画的にプログラムを組んで取り組むよう各学年へ呼びかけ。学活、道徳等で実施(ピアサポート演習資料等活用) ①出会い	学級での振り返りの時間(価値付けと認め合い)	【職員会議】 ・本校におけるピア・サポートの目標 ・各指導部の方針と連携したピア・サポートの位置づけ
5月	運動会	②言葉使い・話し方・聞き方		
6月	わくわく遊び① 児童会 「ピア・サポートの視点に立った活動に取り組む」	③思いやり		
7月	わくわくペア給食			
8月				
9月	委員会(児童会) 「ピア・サポートの視点に立った活動に取り組む」(あいさつ呼びかけ) 陸上選手を励ます会	④自己表現		
10月	親善音楽会出場を励ます会 陸上大会出場を励ます会 校内音楽会 わくわく遊び②	⑤信頼・友情		ピア・サポートの視点から見た各活動の中間ふりかえり
11月	わくわくペア遠足	⑥いじめ対応		
12月	西北チャレンジカップ			
1月	百人一首大会 わくわく遊び③			
2月	児童会 「活動の振り返り⇒成果と課題」 わくわく班ランチ(6年生に感謝)	⑦情報の扱い方		
3月		⑧活動のふり返り		ピア・サポートの視点から見た活動のふりかえり

2 本校のピア・サポート活動の紹介

～たてわり・ペア活動の実践～

●1年生を迎える会（全校遠足）

新1年生は13名。始めの会では、全校児童で歓迎のムードを作った。目的地では、わくわく班での活動を充実させ、西北小は1年生から6年生までがとても仲よしであることを実感できた遠足となった。



●わくわく班での全校遠足

秋の遠足では、1～6年生全員で近くの神社へ出かけた。ゴールまでの道のをペアで歩くことで、絆が深まるように考えた。当日は、高学年が先導しながら、お互い声を掛け合って歩いていた。目的地では、ペアでお弁当を食べながら会話を楽しむ姿が見られた。



●異学年のペアによるわくわくペア読書

1・6年生、2・5年生、3・4年生のペアで上級生が下級生に読み聞かせを行った。相手に伝わるよう、上級生が丁寧に読み聞かせる姿が見られ、下級生もよく話に聞き入っていた。絆が深まるよい活動となった。

●わくわく班遊び（昼休み）

たてわり活動の重要なもので、1～6年生が縦割り班に分かれて遊ぶ、わくわく班遊びがある。4～6年生が遊びの計画・運営を順番に行っていく。4・5年生が運営したときは、6年生がアドバイスをしたり指導したりする場面があり、班で助け合いがみられ、とてもよい活動となっている。



●ペアでの応援・競技（運動会）

運動会は、前年度同様ペアを同じ色になるようにし、応援席も隣に座るように配置した。上級生が下級生の世話をしたり、ペア競技の時には、張り切って応援したりする姿が見られた。団体競技では、ペア種目として、フラフープをペアで運ぶリレーを行った。力を合わせ、声を掛け合いながらフラフープを運ぶ姿が見られた。



●百人一首大会

本校では、ペア学年合同で試合をするようにし、相手を敬う気持ちを大切にできるように考えている。当日は、対戦相手が誰であっても、正々堂々と集中して取り組む姿が見られた。

●校内音楽会

練習では、子どもたちがお互いにアドバイスし、よさを認め合いながら取り組む姿が見られた。子どもたちの演奏を聞きに保護者や地域の方々もたくさん来校し、温かな雰囲気の中で音楽会が行われた。当日は、どの学年も息の合った発表を披露し、温かな声援が送られた。



●西北チャレンジカップ

今年度から、静岡県体力アップコンテストの中から学級ごと種目を選択し、目標へ向かいチャレンジすることにした。昇降口に記録板を設置することで、種目が異なる中でも、互いの頑張りを意識しやすいようにした。他学年と競い合うのではなく、学級ごと目標回数を決め、金賞目指してチャレンジする大会とした。当日は、進んでペア学年を応援する様子が見られ、白熱した大会となった。



●あいさつ運動（児童会）

児童会が中心となり、全校にあいさつを広める活動を行った。朝、児童会の子どもたちが全教室へ行き、自ら進んであいさつをして歩いた。児童会が元気にあいさつをすると、子どもたちもうれしそうにあいさつを返していた。また、学年問わず見つけたよいあいさつの姿を掲示して、あいさつの花を作った。互いに良い表れを認め合うことで、あいさつが進んでできる子どもが徐々に増え、学校に明るい雰囲気広がった。



3 本年度の成果と課題

○成果

本年度は前年度の活動を継続しつつ、内容の充実を図った。（わくわく班活動、運動会など）また、児童会だけでなく、他の委員会や学級でピア・サポートを全校に広められるような活動を行ってきた。そうすることで、学年を超えた交流の機会が増え、絆が深まったように思う。全ての行事や委員会の企画等において活動を見直すことで、ピア・サポートが更に広まりを見せた。

△課題

西北小の子どもは、素直でのびのびとしていることがよい所だが、相手に対する距離感が近い。親しいなかでも言葉遣いについては考えていく必要があると感じている。温かな言動を褒め、認めながら、ピア・サポートをいろいろな場面に波及させたい。ピア・サポートが自然にできるようになるよう支援していくことが必要だと感じた。

4 来年度に向けて

本校は、学校教育活動の一環としてピア・サポートを位置づけ、継続した取り組みを行っている。子どもたちの実態を考えると、相手を大切にするピア・サポートの意識は非常に重要であると考えている。引き続き前年度の活動を継続しつつ、子どもたちの実態に合わせた取組を行っていきたいと考えている。